

センター的機能 支援状況

校外支援の状況についてお知らせします。本校センター的機能における、令和4年度の校外支援の実施件数は、のべ228件でした。令和3年度は、226件でしたのでほぼ同数になりました。以下に、その概要をお知らせします。

表1. 依頼者別相談件数と割合

依頼者等	就学前	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	子ども保育課	教育研究所	保護者	その他
件数(件)	59	123	18	0	0	3	8	3	14
割合(%)	26	54	8	0	0	1	4	1	6

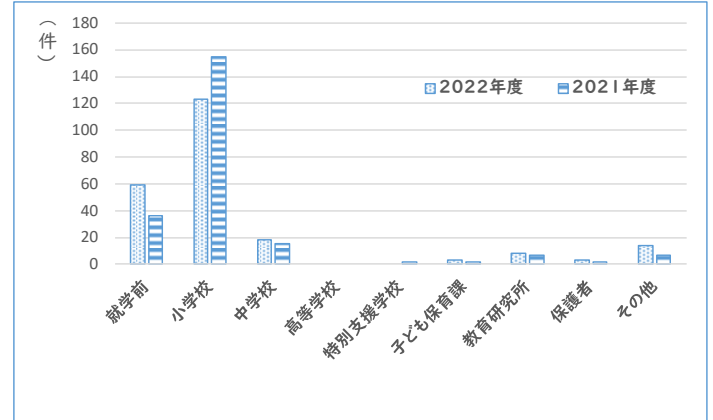


図1. 依頼者別相談件数

表2. 依頼内容別相談件数と割合

依頼内容等	訪問・巡回相談	来校相談	情報提供	研修会講師	物品貸出し	発達検査	その他
件数(件)	136	5	12	4	12	45	14
割合(%)	60	2	5	2	5	20	6

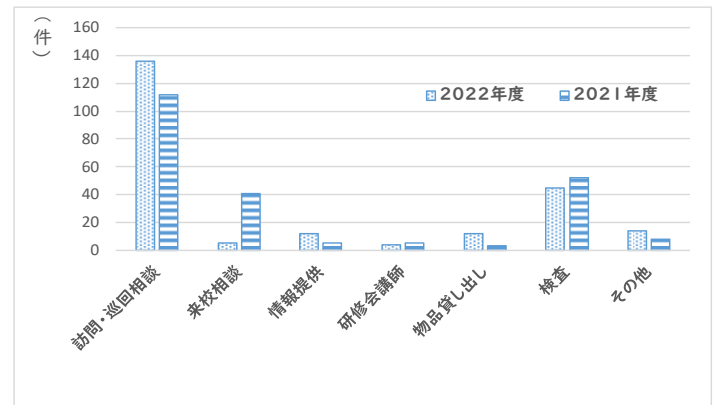


図2. 依頼内容別相談件数

依頼者別の相談件数では、小学校からの相談件数の割合が高く、続いて、就学前の幼稚園・保育所・認定こども園からの相談件数の割合が高く、小学校と就学前を合わせると相談件数全体の約81%を占めています。特に、就学前の相談件数の割合が増えています。依頼内容別では、訪問相談・発達検査の依頼が多く、これは、学校園や保護者が、子どもたちの特性を知り、特性に合わせた支援の仕方についての助言を求めているためと分析しています。教員や保護者との面談では「子どもがどうして困っていたのかが分かった。」などの感想をいただいております。

相談後のアンケートでは、「児童自身が自分の強みを知り、それを伸ばそうとする姿が見られ、前向きに生活できるようになった。」「集団生活にスムーズに参加できるようになった。」「教師が子どもたちの困っていることに気づき、以前より子どもたちことが見えるようになった。」「問題行動が減り、以前より落ち着いて行動できるようになった。」「保護者との関係が深まった。」などの意見をいただきました。今後も地域の学校園や子どもたちのために、よりよい助言ができるよう相談員の資質向上に努めたいと思っております。

鴨島病院連携事業

今年度、鴨島病院の理学療法士と作業療法士の専門家の先生に2回ずつ、計4回来校していただき、児童生徒の体の動きや手指の操作などについて、助言をいただきました。教えていただいた内容に沿って指導を続けることで、今まで苦手だった動きがスムーズになったり、力強くできるようになったりする様子が見られました。継続することで少しずつ成長することや、生活の質を上げることは、児童生徒の可能性を広げることにもつながることを実感することができました。また、手指の巧緻性を高めるためには、体幹や肩周り、腕の動きが安定していないと難しいことなども学ぶことができました。外部専門家の先生から学んだことをこれからの指導に活かしていきたいと思っております。鴨島病院連携事業の報告会資料は本校ホームページにも載っておりますので、御覧ください。